

I 研究主題

生涯にわたって主体的に心身の健康づくりに取り組み、健康で安全な生活を営む資質・能力を育てる健康教育はどのようにすればよいか。

II 主題設定の趣旨

中学生の健康や安全に関する問題は、近年の社会環境や生活環境の急激な変化に伴い、多様化・複雑化している。学校では、食生活を含めた生活習慣の乱れ、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患の増加、性に関する問題、インターネットの利用に伴うトラブルや依存等の健康課題がみられる。また、生徒の身体的な不調の背景には、いじめ、不登校、対人関係スキルの不足、虐待や貧困等の家庭の問題が関わっている場合もある。さらに、昨今の感染症の流行や気候変動、それに伴う不測の災害時における危機管理も課題となっている。

これらの現代的な健康課題に対応するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、生徒が主体的に健康で安全な生活を営むための資質・能力をバランスよく育成することが重要である。そのためには、生徒が心身の健康について理解を深め、自ら必要な情報を収集し、適切な意思決定や行動選択を行うことができる力を育むことが求められている。また、一人一人の生徒に応じた支援を実現するために、教職員や専門スタッフ等で組織される学校がチームとして機能し、学校、家庭、地域が連携・協働し、多面的に取り組んでいくことが大切である。

そこで、これまでの研究の成果を踏まえ、「生きる力」を育成することの意義を改めて捉え直し、生徒が生涯にわたって健康で安全な生活を送るために必要な資質・能力の育成を目指して研究を進める。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

自らの健康課題を主体的に追究し、健康と安全を意識した行動を選択して、実践することができる生徒の育成を目指した保健教育について研究を進める。

2 研究内容

- (1) 健康課題を焦点化し、組織的かつ計画的に行う指導の工夫
- (2) 指導内容と指導方法の工夫
- (3) 評価の工夫

保健部会 令和7年度研究計画

I 研究主題

生涯にわたって主体的に心身の健康づくりに取り組み、健康で安全な生活を営む資質・能力を育てる健康教育はどのようにすればよいか。

—生徒が心身の健康について理解を深め、主体的に健康な生活を実践するための指導の工夫—

II 主題について

近年は、将来の予測が困難な時代といわれ、中学生を取り巻く諸問題も多様化・複雑化している。そのため、学校には、従来の生活習慣や性に関する指導、喫煙・飲酒・薬物乱用防止への指導、学校不適応生徒への対応に加え、感染症対策、インターネットに関わる問題への対応、アレルギー疾患への対応、がん教育や心の健康に関する指導の充実等、幅広い指導や対応が求められている。

生徒が生涯を通じて主体的に健康な生活を実践するためには、生徒が自他の健康課題を発見し、心身の健康に関する知識や技能を身に付け、必要な情報を自ら収集し意思決定や行動選択を行い、健康や環境を適切に管理し改善していく資質・能力を育てることが重要である。また、一人一人の生徒に応じた支援を実現するためには、学校がチームとして機能するとともに、家庭や地域と連携・協働しながら多面的に取り組んでいくことが大切である。

昨年度までの研究から、生徒が健康に関する課題意識を高め、主体となって実践するためには、養護教諭の働きかけや科学的根拠に基づく情報から、生徒自身が自分に合った方法を選択し、課題解決をする場を設定することが有効であると分かった。また、効果的なチーム支援を行うためには、多職種が連携・協働できる組織づくりが重要であり、養護教諭は、多様な視点からの気づきや課題を積極的に教職員へ伝える発信力や、学校と専門機関をつなげるコーディネート力を養う必要があることが分かった。

そこで、本研究主題が3年目となる本年度は、これまでの研究を基に、生徒がもっと知りたい、考えたいと思う課題発見、課題解決につながる保健教育や保健室経営等を工夫し、学校全体で取り組むことで主題解明に迫りたい。

III 研究内容とその視点

1 健康課題を焦点化し、組織的かつ計画的に行う指導の工夫

- (1) 健康課題を焦点化し、PDCAサイクルにつなげる。
 - ・健康診断や「とやまゲンキッズ作戦」等の健康に関する各種調査結果やデータ、教職員からの情報等より、生徒や学校の実態を適切に把握する。
- (2) 教育活動を体系的に捉えて、指導計画を作成し、指導体制づくりを行う。
 - ・生徒の健康課題を学校全体で共有し、集団を対象とした指導と個人を対象とした指導、保健室での個別の支援を組み合わせて行う。
 - ・保健体育科、特別活動、その他各教科等との関連を踏まえるとともに、学校行事や生徒会活動を位置付けるなど、カリキュラム・マネジメントの視点を生かした指導計画を作成する。
 - ・小・中・高等学校の指導内容について系統性のある指導を工夫する。
- (3) 家庭・地域及び関係機関との連携を図る。
 - ・学校保健委員会の企画・運営や家庭との情報交換を工夫して、活動の充実を図る。
 - ・円滑な連携を図るために、コーディネーターとしての働きかけを工夫する。

2 指導内容と指導方法の工夫

- (1) 主体的・対話的で深い学びの視点に立った効果的な指導を工夫する。
 - ・生徒自らが課題を発見し、適切な意思決定や行動選択を行うことができる力を育む活動を工夫する。
 - ・生徒の思考を促したり深めたりする発問、教材の提示方法を工夫する。
 - ・生徒が自分事として課題意識を高められるよう、日常生活に関連が深い教材、科学的な根拠に基づく教材や視覚的に理解が深まる資料を工夫する。
 - ・多様な指導方法（ICTの活用、実験や実習、ロールプレイング、ブレインストーミング等）を取り入れ、問題解決を自ら行う活動を重視する。
 - ・生徒がお互いに認め合い自分の考えを広げ深められるよう、生徒同士が関わり合う場を工夫する。
 - ・生徒が自他の健康な生活を目指して主体的に活動できるよう、生徒会活動の活性化を図る。
- (2) 養護教諭の専門性や保健室の機能、チーム力を生かした指導を工夫する。
 - ・組織の一員として養護教諭の視点からの気づきを発信し、効果的な保健教育をマネジメントするためのアプローチ（いつ、何を、誰に、どの場面で、どのように働きかけるかなど）を工夫する。
 - ・保健室の機能を生かし、体と心の両面から生徒を捉えて個別指導を行い、生徒が継続して実践できるよう支援する。
 - ・生徒の心身の健康課題を多面的に捉え、一人一人の発達の段階に即した課題を設定し、校内組織で役割を分担したり、家庭・地域及び関係機関との連携を図ったりしながら、個に応じた支援を行う。
 - ・養護教諭の専門性を生かし、自己肯定感や自己有用感が高められるような関わりや、他者と関わる力が高められるような支援を工夫する。

3 評価の工夫

- (1) 健康な生活への実践意欲を高める評価を工夫する。
 - ・一人一人の自己肯定感や実践への意欲を高めることができるよう、自己評価や相互評価を活用する。
- (2) 指導の改善に生かすための評価を工夫する。
 - ・ねらいに即した評価規準を作成し、その達成度を把握して、指導過程や指導方法の改善に結び付ける。
 - ・教職員や家庭、地域等からの評価を取り入れ、学校保健活動の成果や課題を明らかにし、R－P D C Aサイクルを生かした改善を図る。

IV 研 究 方 法

- 1 研究主題に対する共通理解を深め、各地区の独自性を生かした研究を進める。
- 2 計画的・組織的に研究を進め、記録を累積・共有し、部員相互の連携を生かして研究を深める。
- 3 実践事例を基に、評価・改善し、研究を進める。
- 4 各地区の情報交換を行い、相互に研究を深める。